

新たな地域コミュニティ支援事業にかかる受託者等の評価結果について（令和３年度）

1 支援の内容及び効果等

【評価項目】「自律的運営に向けた地域活動協議会の取組（イメージ）」

- (1) 「Ⅰ 地域課題への取組」にかかる支援の状況（実績）及び効果等
- (2) 「Ⅱ つながりの拡充」にかかる支援の状況（実績）及び効果等
- (3) 「Ⅲ 組織運営」にかかる支援の状況（実績）及び効果等

評価	左記の理由
B	・年度始めと年度途中で各地域の現状と課題を整理し、支援していた。 ・基礎的な内容を支援することで、一部の地域で議決の在り方などが改善されてきた。 ・総会、運営委員会での書面議決方法についての支援を行うことで、コロナ禍でも各地域が適切に議決を行うことができた。 ・部会支援により、自律的に運営される部会が増えているものの、部会運営の体制整備が必要な地域がある。 ・補助金の取り扱いについて、職員間のスキルにばらつきがあったため、地域支援において、認識の齟齬が発生したところもあったが、会計処理を行うことができた。 ・地域ニーズの把握が不十分であり地域を訪問する等きめ細かい支援が不足していた。 ・地域活動協議会の担い手獲得の一環として作成した、町会加入促進リーフレットについて、地域別グーグルフォームの作成支援を行った。

【評価項目】「事業の実施体制等」

- (1) 自由提案による地域支援の支援状況（実績）及び効果等
- (2-1) スーパーバイザー、アドバイザー及び地域まちづくり支援員の体制にかかる支援状況
- (2-2) フォロー（バックアップ）体制等にかかる支援状況
- (3) 区のマネジメントに対応した取組にかかる支援状況

評価	左記の理由
C	・ツルラボ（鶴見区地域活動研究会）において Zoom を使いオンラインを併用で開催し、コロナ禍における地域活動について支援していた。 ・区との定期的なミーティングにおいて、情報・課題の共有が図れている。 ・職員体制について、年度途中で職員の交替が生じ、遅滞なく補充されたものの、知識が不足しているところもあり、地域支援に必要な体制が整備されたとは言い難く、フォロー体制も十分ではなかった。

2 取組効果の評価（アウトカムに対する評価）

【評価項目】 アンケート調査

評価	左記の理由
B	・地域活動協議会の構成団体を対象に実施したアンケート調査で、「まちづくりセンター等は、地域の実情やニーズに即した支援を実施していると感じる割合」が80.6%と昨年度の87.5%からは大幅な減少となった。職員体制等が大きく変更となり、引継ぎ過程によるところもあるとは考えられるが、さらなる地域実情の把握や工夫を凝らしたニーズに即した支援を講じる必要がある。

3 総合評価【全体】

評価	左記の理由
B	・全体として概ね妥当な支援である。 ・年度始めに各地域の現状と課題を整理し支援していたが、地域の依頼を受けてからの支援が多く、まちづくりセンターからの地域課題に対する提案型の支援が不足していた。 ・部会支援により、自律的に運営される部会が増えているものの、部会運営の体制整備が必要な地域がある。 ・Zoomを使ったオンライン事業や会議の書面表決など、コロナ禍における地域活動についての的確に支援していた。 ・地域ニーズの把握が不十分であり、地域を訪問する等きめ細かい支援が不足していた。 ・補助金の取り扱いについて、職員間のスキルにばらつきがあったため、地域支援において、認識の齟齬が発生したところもあったが、会計処理を行うことができた。 ・職員体制について、年度途中で職員の交替が生じ、遅滞なく補充されたものの、知識が不足しているところもあり、地域支援に必要な体制が整備されたとは言い難く、フォロー体制も十分ではなかった。 ・他区・本部との連携を密に取っており、当区の支援に反映させていた。 ・自主事業に過剰に注力し、本来の自律支援が十分に行えていない時期があった。 ・上半期において、本市の施策等を踏まえた支援ができていなかった。 ・地域支援について、適宜、区と調整し、下半期の地域支援業務へ反映させていた。

（評価基準）

- S：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準を大幅に上回っている。
- A：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準を上回っている。
- B：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準に概ね達している。
- C：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準を下回っている。